

少年の主張

審査会より

各校の代表としての発表

6月8日(日)に少年の主張審査会が行われました。今年度は小学生7人、中学生4人の児童生徒が発表してくれました。内容を考え、各学校の代表として相手に伝わるように発表する姿が多く見られました。今回は、中学生の最優秀作品である、三輪華楓さんの主張をもとに「言葉」と「人権」について考えてみたいと思います。

中学生の部

最優秀賞「言葉」

東部中学校 三輪 華楓

「死ね。」この言葉をよく聞くようになりました。その言葉の重みをみなさんは本当に分かっているのでしょうか。私は中学一年生の冬までこの言葉の重みを分かっているつもりで本当は分かっていたかもしれません。ですが、それは姉の交通事故をきっかけに知ることになりました。

中学一年生の冬休みの最終日、いつものように私と姉は姉妹げんかをしていました。

私の家族には暗黙の約束があります。それは、「何があっても人に対して死ねと言わないこと」です。だからいつも姉妹げんかをして「死ね」とお互いに言ったことはありませんでした。ですが、その日はけんかがヒートアップして私は姉に対して「死ねよ」と軽い気持ちで言っていました。姉はすごく悲しい顔をして静かに部屋に戻り、けんかは終わりました。いつもはけんかで姉に勝てないから勝ったことに少し嬉しさを感じつつ、モヤモヤしていました。そして次の日の朝、私は昨日言ったことをしっかり謝ろうと決めました。ですが、謝ろうと思えば思うほど気まずさだけが残り、とうとう姉に謝ることができないまま姉は高校に行ってしまうました。「まあ、帰ったら言おう」そんな気持ちでいました。数十分後、母に電話がかかってきました。内容は姉が交通事故にあったというものでした。母は、焦りと不安で手が震えていました。こんな母は初めて見ました。電話越しで話す父の声からも焦りや不安を感じているのが伝わりました。私ももしかしたら姉が死ぬのではないかと怖くなり、なぜ死ねと言

ってしまったのかと大きな後悔に押し潰されそうでした。母はすぐに姉の元へ向かい、父も仕事場からすぐ姉の元へ向かったそうです。まだ中学生の私には何もできる訳はなく、学校に行きました。学校にいる間もずっと姉のことを考えていました。そして学校が終わわり、私は早く家に帰りたいくて、早く姉の姿を見たくて急いで家に帰りました。姉の姿が目に入り、私は静かに涙を流しました。母と父は不思議そうな顔をしていましたが、姉は何も言わず笑って私を抱きしめました。自転車と車での交通事故で姉は救急車で運ばれましたが、幸いにも軽傷でした。その日の晩ご飯の時、姉はこう言いました。「けんかしたまま、学校とか仕事に行くのはだめ。何かあってからじゃ遅いし、後悔するからね」その言葉がその時の私には深く心にささりました。そして、なぜ私の家族に「何があっても人に対して死ねと言わないこと」という暗黙の約束があるのかを初めて理解しました。母と父は知っていたのです。軽い気持ちで言った「死ね」という言葉も人を傷つける言葉であり、言った本人も後悔してしまう言葉

であること。とても重みのある言葉であることを。そして私も理解しました。だからその日以来、その言葉を口にしたことはありません。そして、口にする一言一言を大切にするようにになりました。今、学校や日常で「死ね」という言葉や同様の意味で中指を立てる人を見ます。何か嫌なことやむかついたことがあるとすぐこの言葉を出します。でも少し考えて言葉を口にしてみてください。言葉は相手を傷つけるものです。だから、言葉は一言一言がとても重みのあるもので決して軽い気持ちで口にしてはいけない言葉もあるのだと私は思います。一度口から出してしまえばどれだけ後悔してももう遅いから。

命の尊さ

私はこの主張を聞いてふと思いついた話があります。それは、生まれたばかりの命がどれだけ必死に生きようとしているか伝えてくれた岐阜県総合医療センター新生児内科の先生の講演です。治療が必要な産まれたばかりの赤ちゃんが必死に手足をばたつかせている様子から、「生きたい」

という命の訴えを感じ、「何としてでも、絶対に助ける」という強い使命感をもったという内容です。そして、「幸せになるために誰もが生まれてきた。私が生まれてきた訳は、愛しいあなたに出会うため。」と締めくくられました。この講演を聞いて、今、生きているということは奇跡の連続であり、誰もがかけがえない存在であることを深く感じる事ができました。華楓さんの家庭にある暗黙の約束も、命が尊いものであり、誰もがかけがえない存在であると知っているからこそ、「命を蔑ろにするような言葉は決して使ってはいけない」という約束として存在しているのだと思います。自分の命の尊さを感じ、大切にできれば、他者の命を同じように大切にすることができる。私自身、命の尊さについて改めて感じ、考えられたのは、演台で思いを伝える華楓さんの言葉に重みがあったからだと思います。皆さまは華楓さんの主張から何を感じられましたか。